



## 第1467回例会 会報

会長 市川輝雄 幹事 若生恒吉  
 クラブ奉仕 佐藤昇

出席報告：会員 82 名 出席 59 名

ロータリーに活力を—  
 あなたの活力を  
 PUT LIFE INTO ROTARY  
 YOUR LIFE

1988 (昭63.7.26) 天候 晴

職業奉仕 佐藤 衛 社会奉仕 迎田 稔  
 国際奉仕 松田士郎 青少年奉仕 碓水節雄

出席率 69.57% 前回出席率 79.71%  
 修正出席 66名 確定出席率 88.41%

## 会 長 報 告

市川輝雄君

長期に亘って中東に悲惨な血を流し続けてきたイランとイラクに漸く平和が訪れようとしています。山大に留学生として来て、すっかりクラブに慣れ親しんだイランのエテバリ君などどうしているでしょうか。この地球上から一日も早く戦争を追放したいものです。

8月理事会の報告及び週間報告を申し上げます。8月の第1例会日がガバナーの公式訪問日に当たするため、本日繰り上げて理事会を行い、次の事項を決定しました。

1. ポリオプラス推進特別委員会会計について
2. 御橋義諦君の職業分類（スポーツ団体）及び委員会所属（職業奉仕委員会、30周年記念誌）について
3. 9月第4例会変更の件…3クラブ合同例会を9月28日に行う。
4. 鶴岡ライオンズ25周年招待の件
5. 庄内国際青年祭広告の件 30,000円

## 6. 会員推薦の件

(株)三立取締役社長 阿部 貢君

(防災設備工事) 推薦者、日向一男君

## 7. アジアゾーン選出理事指命の件

- 先週行われたクラブフォーラムは、初めての試みにもかかわらず、素晴らしい出来栄で所期の目的を達成され、来月催される青少年奉仕委員会のフォーラムのよい参考になりました。テーマが会員増強と云う掘みにくいものだっただけに時間も限定されていて、いささか観念的になりましたが、次回はもっと具体的な問題に迫ってもらえたらと存じます。又、SAAによる会場設営に新鮮さを感じました。会報の方にもご苦労をかけました。
- 20日に酒田山王くらぶに於いて吉田ガバナーと分区内各クラブの会長・幹事との合同懇親会が行われました。公式訪問時に各クラブに迷惑をかけまいとするご配慮と存じます。奥様もお見えになり公式訪問前に意義ある顔合せでした。
- 本日夜7時より第3コミセンにおいて、ユネスコ主催の荘内日報社論説委員長、佐々木和弘さんと

## ロータリアン日記 ○月○日

東京の夏は暑い。しかし、今日はめずらしく、はだ寒かった。ビザを取りにアメリカ大使館へ行く。早めに行ったつもりだったが、すでに大使館前には長い行列ができていた。その上、雨まで降り出して、憂うつな気分を拍車をかけた。

最近、不安からか、アメリカに行くことについてあまり考えたくなくなってきた。身体だけが準備に専念して、頭は別のところにあるようだ。とにかく、待つこと一時間半、ようやくビザを手に入

れ、足早に虎ノ門を去った。

東京の国際ロータリー日本支部を尋ねる。ビザのコピーをFAXで財団に送るためだ。快く協力していただいた。これで、東京での仕事は終わった。

あと出発まで日にちはないが、しばらくはなにもかも忘れて、家でゆっくりしていたい。財団の奨学生の試験に受かって、はや一年たった。準備で、気の休まる日がなかった。一日でいいから、コーヒーを好きなだけ飲みながら、朝から晩まで記憶喪失にでもなっていたい。

ロータリー財団奨学生 須田理恵子

の座談会があります。ジャーナリストから見た社会、国際情勢を膝を交えて聞くことの出来る貴重な機会です。三井徹君よりぜひ皆様にお伝えしてくれとの事でした。

- 姉妹都市N.B.市友好親善使節団一行が7月29日～31日迄来鶴滞在されます。団長はN.B.市長であり、ニュージャージー州の上院議員であるジョンAリンチ氏ご夫妻一行8名で、4年振りの来鶴との事であります。姉妹都市のきっかけはご存知のように、当クラブ初代会長、小花盛雄君が昭和35年に渡米し、N.B.・R.Cと姉妹クラブの盟約をしたのが始まりですから、因縁浅からぬものがあります。30日のマリカホールにおけるレセプションには多数ご出席の上、暖かい歓迎をされたいものと存じます。
- 次回例会8月2日はガバナー公式訪問日となります。例会終了後クラブ協議会を行いますので、各委員長は計画書を持参の上、集合して下さい。  
(委員長欠席の場合、代理を出すこと) 大体3時から3時半頃迄に終る予定です。
- 矢部晋君が急に仙台に転勤になり、退会届けが出ております。

### 秋元順雄校長への御礼

可憐な野の花ネジ花に象徴される根強く逞しいもの、スパイラルな学園活動は羽黒高校の地方に

### ゲストスピーチ

## 『産学一体』の教育をめざして

### 学校法人 羽黒学園

羽黒工業高校長 秋元順雄氏



「産学一体」を建学の精神として、産業界の中堅幹部養成に焦点を当て、出発した羽黒学園は、本年6月23日で満26年を迎える事が出来ました。高度経済成長期を迎えていた創設期は、県立の工業高校も相次いで

しい独特な校風を生み出しています。地方の教育レベル向上のため産学一体の実をあげ、一層のご発展の程ご期待申し上げます。

### 幹事報告

若生恒吉君

#### ○例会変更のお知らせ

##### ・余目R.C

日時 8月5日 P.M 6:30点鐘

場所 余目商工会館

登録料 3,000円

##### ・八幡R.C 8月6日の例会を

日時 8月5日 P.M 6:30点鐘

場所 八森荘

登録料 3,000円

##### ・鶴岡東R.C

日時 8月10日 P.M 6:30点鐘

場所 ことぶき会館

登録料 3,000円

#### ○会報到着 遊佐R.C

○年次計画書 鶴岡東R.C、遊佐R.C、八幡R.C、  
余目R.C、酒田中央R.C

#### ○前分区代理高橋君より暑中見舞い到着

#### ○R.I 日本支局より公式名簿の注文

一冊 931円

#### ○8月1日よりR.Iレート 1\$ = 133円

鉄筋コンクリート校舎、スチーム暖房、フラッシュトイレ、カウンセリングルーム等を備え、当時、東北では、近代的な高校として出発したわけです。機械科と自動車科の二科編成でありました。その後、高校進学率の上昇及び、ベビーブーム世代の収容という地域社会のニーズに応える形で、昭和41年に普通科の設置を行っております。創設頭初の地域的な状況から、校外体験実習は、遠く首都圏に出かけて行っております。今流で申します、勤労体験学習であります。

ここまで申しますと、お気付きの通り、臨教審答申に出て参りました事柄は、大体、私共を含めた私学の実践して来ました事柄を参考にしているという事です。日本の私学の歩みは、明治期の私学取締法この方、官尊民卑の風潮が続きまして、戦後の一時期は、まさに、危機に類する時もあったのでありますが、現在は、昭和70年代の生徒急減期を控え戦国時代に突入しております。生徒数の確保を巡って、各校種間、公私間、私私間の戦いでありました。それは、いかに各校が独自の特色、校風を鮮明にし、教育効果を挙げ、魅力ある高校づくりをして行くかという競争であります。東京以北では、最初に高齢化社会入りした山形県の、然も過疎化現象の顕著な庄内地方は、その最たるものであります。昭和74年には、現在の公立高校の定員がそのままで、仮りに公立高校が100%充足の場合は、庄内私学4校に入学する生徒数は、ゼロどころではなく、マイナス40名となります。現在、公私間の学納金の差は、4倍から6倍ありますので、単純な言い方をしますと私学は、公立の4倍頑張らなければならないのであります。教育界では、高等学校は、幼稚園から大学までの間で、谷底の状況にあります。経常費二分の一補助の私立大学並みに高校がなるとすれば、恐らく公私間では、私学が優位に立つでしょう。理由は簡単です。私学の職員がオーバーワークするからです。私学に学ぶ生徒の保護者が、税の二重負担をしている事実は、御案内の通りであります。マイナス・シーリング以前は、前途にかすかに明るさが見えたのですが、それも束の間、教育環境整備事業等に係る補助制度は、後退しております。この事は詰まる

所、高度経済成長の終焉、ゼロ・サム社会への突入を意味しております。そんな中で、文部省と日教組は、教育サービスを税金で賄うという共通の考え方をもちながら、経済の成熟化、国際化、高令化という大きなトレンド(潮流)の中で、老人問題、福祉問題、医療問題、防衛費の増大等で、国のパイの配分に於いて、教育への配分は、頭打ちの状態にあります。先頃の臨教審提言の結論は、制度改革の提言ではなく、教育内容改革であります。臨教審のひとつの教え方として、教育への配分の頭打ち状態から、受益者負担の考え方を導入しなければ教育は良くなりません。という事は、公立・県立高校では、受益者負担をもっとすべきであり、負担の重い人には、奨学金制度を充実すべきだという事です。税金で教育をする事の妥当性に矛盾が出た、つまり一定の教育をする事は、今の子供には無理になっているという事になりますと、今後は、多様な教育をする私立学校教育が非常に大切になってくるという事です。

戦後の教育改革の流れを足早に見ると、昭和20年代初め、アメリカの教育制度をそのまま導入し、30年代には、高度化した学問的な事、知識を体系的に教える事に改革、40年代になると、進学率の上昇による生徒の多様化から、アカデミックな事を教えるという路線では、生徒がついて来られなくなり、それに対応する教育内容の多様化へと改革の流れが変わり、50年代には「ゆとりと充実」についての改善が行われ、60年代に至っているという事になります。また、この度の臨教審に於ける、初等中等教育に関わる答申内容に触れますと、第一次答申では、中等教育段階に於ける多様化をその内容とする、6年制中等学校、単位制高校、専修学校の高等課程の大学入学資格が取り上げられていますし、二次答申では学校と生徒と家庭の連携、道徳教育の重要性という事で、徳育の充実、教育内容の改善、教員の資質の向上、教育条件の改善、いじめへの対応が上げられております。教育内容の改善刷新の問題では、創造力、思考力、判断力の重視と、基礎基本を養成しつつ個性を育てる事、ボランティア活動が重視され、多様化と個性化、国際化と情報化が取り上げられて

います。教育課程の改善に於けるトレンドは、生徒の多様化に応じた多様化路線であります。因に、文部省の「知・徳・体」に対して、臨教審では「徳・知・体」としております。第三次答申では、生涯学習、後期中等教育の多様化、教育内容の変化、通学区、塾問題、教科書問題を取り上げているのであります。教育産業も、巨大化したと言われる今日、各省庁のせめぎ合いもあるわけですが、全国津々浦々にあります塾は、通産省ではサービス業として、文部省では生涯教育として位置づける訳であります。ところで、全日制高校の生徒収容率は、昭和62年度山形県は101.8%と、山梨県の102.3%に次いで、第二位を占めております。全国の全日制高校の生徒収容率は90%ですから、いかに山形県が高いかお解りいただけたと思います。この事は、進学競争率が極めて低い事を意味すると同時に、大学進学率が全国で、下から4番目という位置を占めるひとつの要因にもなっているのであります。更に言いますと、庄内地区は、学納金の値上げが困難な地域であります。然も田川地区は、飽海地区に大学進学率に於いては負けております。けれども、庄内は、何が良いかと言えば、人間にとって一番大事な水が、一年中おいしい地域であります。ブナの乱伐等で、涵養地を荒さないかぎり、当分心配ないという地域です。また、出羽商人を輩出して来た地域でありますから素材が悪かろう筈がありません。ただ、人口が少いだけ、自己主張や表現力が乏しいだけであります。育成の仕方いかんで、文武両道の目標を達成出来る子供達に恵まれた地域です。そして、大変ありがたいことは、産業報国の実を挙げ得る人材養成機関として出発した、私共の学園に対しまして、実に多くの地域産業界から御理解と御支援をいただいているという事です。結論から申しますと、今後、羽黒学園は、建学の精神「産学一体」から「学産一体」の道を行んで行くつもりであるという事です。高等学校私学の運命は、今後10年で決定づけられると思います。そこで、私共は首都圏から生徒を募集する事で、丙午の生徒急減期に対応するという先達役を演じたように、この度は、5年前から準備を進め、学科改編第一弾として、東北初の電子電

気系学科の電子機械科を61年4月にスタートさせました。同時にC A Iシステムも東北初で導入いたしました。機械科一学級を廃止し、電子機械科を一学級新設したものです。狙いは、テクニシャンの養成、庄内地域に優秀な人材を定着させ、技術レベルの向上による産業振興と地域の活性化に貢献する事にあります。現在の日本経済は、戦後第三の変革の時代を迎えていると言われます。第一の変革は、先進国型産業構造のいわゆる高度成長の時代、第二の変革は、石油危機を迎えての省資源、省エネ型、技術先端型の時代、そして、第三の変革時代は、水平分業への転換、水平分業体制への転換の時代を迎え、この変革の波を乗りきらなければならない訳です。そして、新しい事業展開の流れは、国際化、業際化、情報ネットワーク化の動きとなり、これらの影響は新卒一括採用、終身雇用制度、年功序列賃金という日本人人事給与体系から、中途採用や能力給、契約制がジワジワと広がりを見せ、既に、従来型社員7割に対し、中間採用社員が3割という会社も出て来ております。経営のパターンも、ピラミッド型からネットワーク型、或はアルプス型への変化を見せてきています。ヒト・モノ・カネの経営三大資源は、各々能力の再開発、多品種少量生産、国際的投機の金融情勢判断の必要性を意味するものであります。プラス第4の資源に情報が登場してきております。課題に対する柔軟性（フレキシビリティ）と適応性（アダプタビリティ）が求められる時代となった訳です。商品の標準化、大量生産、輸出主導という従来型から多様化、高度付加価値型、国内市場即応型への変化がある訳です。現在日本の輸出は、G N Pの一割に過ぎません。9割は内需です。これまで裾野の広い自動車産業は、5割から6割を輸出に依存して参りましたが、輸出規制を受ける時代となりました。そして、アジアN I C Sからの輸入は、85年平均に対し、87年末は、実に2.5倍になっております。こうした種々の状況を踏まえて、先行きの見通しを立てなければならないのであります。いよいよ昭和67年使用開始が見込まれる庄内空港も、当然、予測してみなければなりません。同じく、日本海側の鳥取県宮空港は、昭和47年7月31日使用開

始、滑走路は1,800 m一本、面積101.3ha、年間乗降客数15万人、貨物量403トン、乗り入れ航空会社は、ANA（全日空）であります。産業界期待の貨物量は年間で、10トン車40台分であります。私共、学園関連の貨物便は、10トン車で週3回、首都圏と往復しております。それは、扱ひ貨物が比較的重い物だからであります。航空貨物の場合、付加価値の高い物、或は軽量の物である事が当然要求されてくる訳です。年間、10トン車で40台分で答えを出して行かねばならないとしたら、企業誘致する場合にも、ただ単に生産機能の一部が来る形態ではなくて、管理機能まで来なければいけないと思ひますし、地場産業であれば、競争力のあるオリジナル製品や産物である事が要求されると思ひます。そうなりますと、技術開発、基礎研究に当る人材、管理部門、行政、政界部門で活躍出来る人材を庄内から出し、庄内に定着させなければなりません。人材養成の為の優秀な人材は、然し、庄内空港等、高速交通網が整備される時点で、永住は無理でも、集中講議という手段がありますから、招致可能となつて来ます。

羽黒工業高校は、総合高校化を進めていますが、現在の所、工業の二文字を取れないでいます。というのは、地域の現在の雇用能力では、就職希望者の全部を収容出来ず、どうしても県外からの求人頼らざるを得ないからであります。学産一体体制づくりは、スパイラリー（螺旋状）に進めております。まず、“Reading builds mind”です。蔵書数33,500となりました図書館、創造の館は、短大レベルの三万をクリアしております。地道な基礎研究、開発に必要な強靱な体力・気力づくりの為に、また

知恵を出し工夫し、感覚を磨く目的で、本年度は、体育館兼講堂の着工を見ております。視聴覚ライブラリーの充実にも着手致しました。体育と文化の充実の為の投資は、7億になりますので、次の事業、研究棟の建設までは、少し時間が必要だと思っております。学科改編の第二弾は、工業科一学級を廃止し、普通科一学級を増します。そうしますと、工業科四学級、普通科三学級の学年編成となり、就職にも進学にも強い鶴翼の陣形が出来ます。茲で、お手本にしなければならないのは、堅実な中小企業の姿勢であります。どんな状況にも、フレキシブルに適応して、日本を支えてきたのですから、人材養成もそのところを真似して行きます。かつては、工業高校出身者が経済を支えて来ました。私達も、庄内の経済を支えるような人材を一人でも多く出すよう努力して参ります。いかなる時も希望を持って、たくましく生きる事の出来る様、今は卒業まで、5種目以上の資格取得を義務づけておりますが、勿論、職員にも種々な課題に挑戦させております。私学のレベルは、スポーツのレベルとも言われますが、頂点に立つには、日常の研究がなくては不可能だからであります。これからも、前進あるのみ、天は自ら助くる者を助く如く、事業部の男子部門を強化し、収益を上げて行き、大学構想の実現を計って行くつもりであります。百億のプロジェクトは、無医地区の抱える問題と共通するものをはじめ、困難な状況はありますが、やりがいのある、夢のある仕事です。これからも、楽しみながら、焦らず、スパイラリーに進めて行きたいと思ひます。

## 委員会報告

### ポリオプラス推進委員会

佐藤 忠君

○ポリオプラス募金計画について

（前回例会時に全員に配布済み）

## 世界社会奉仕委員会

お 願 い

山口篤之助君

○8月会報掲載予定者

藤川享胤君、川上栄樹君、荒井宏明君  
若生恒吉君、碓氷節雄君、内山喜一君

上野 三郎 君

以上の方は、原稿と掲載料（2,000円）を8月2日迄、事務局に届けて下さい。

ビ ジ タ ー

鶴岡西R.C 佐藤 修 弥 君

退 会 挨拶

矢 部 晋 君



今回、大変突然ですが仙台に転勤する事になりました。我々の転勤は発令になりますとすぐ新任地に赴かなければならないと云う厳しいもので、明日、鶴岡を離れます。

2年弱前に前任者の坂本局長に対して大変ご協力を頂いた事を御礼申し上げるとともに、皆様方のご厚意に報いる為に頑張ったつもりですが、短い期間だった事で、地域の皆様若干混乱を与えた事もあったのではないかと反省もしています。又、後任には鶴岡出身の富田利信君が昨日着任しております。皆様方のお仲間に入れて頂ければ大変有難いと思います。

8月9日のプログラム予定

○ゲストスピーチ

山形大学農学部教授 笹原 健 夫 殿  
「農作面のバイオテクノロジー」



カット 石井敬三君

ス マ イ ル

石川寿男君 土地を購入しました。  
関原亨司君 矢部局長のご栄転を祝して。

昭和63年 7月 8日開業

MEMBER'S CORNER

亀屋ホテル

山形県・鶴岡市湯田川温泉  
竹に梅ふりていて 花咲く庵



保比の庵

昭和63年7月8日開業

代表取締役 阿 部 与 十 郎

“奉仕の理想にもとづく指定救急医院”

張 外 科 内 科 医 院

張 紹 洵

鶴岡市日吉町9-68  
TEL 0235 (22) 2435  
2436

ポリオプラスを成功させよう 世界社会奉仕委員会

ポリオプラス募金にご協力ありがとうございました。